

飢餓海峡

観賞日 2020・2・24

【概要】

制作 1965年 日(東映) 上映時間 183分
原作 水上勉
脚本 鈴木尚之
監督 内田吐夢
音楽 富田勲
出演 三國連太郎(犬飼多吉・樽見京一郎)
左幸子(杉戸八重)、伴淳三郎(弓坂刑事)
高倉健(味村刑事)



【あらすじ】

昭和22年9月20日、北海道南部を襲った大型台風。多数の死者を出した青函連絡船層雲丸の転覆事故。引取り人のない死体が二体。同じ頃、近くの岩内で大火が起き、その騒ぎに乗じて質屋が襲われる強盗殺人事件が発生。事件を担当するのは函館署のベテラン刑事弓坂。犯人は三人。網走で刑期を終えた男二人と身元不明の大柄な男。海峡を越えて下北半島に渡った大柄な男、犬飼多吉は大湊の娼婦杉戸八重と出会い一夜を共にする。八重は多吉の爪を切ってやり、多吉は八重の境遇を知りお礼にと大金を渡す。八重は訪ねてきた弓坂に嘘の証言をし、下北を去り東京に移る。弓坂も八重を追い東京へ。

10年後。再び娼婦となっていた八重は新聞で犬飼とそっくりの男の写真を見かけ、男を訪ね舞鶴までやって来る。樽見京一郎と名乗る男は「私は犬飼ではない」と言い張るが、抵抗する八重を思わず絞め殺してしまう。また、それを目撃した書生の竹中をも殺害。樽見は二人を心中事件に偽装するが、東舞鶴署の味村刑事は樽見の様子に不信を抱く。やがて、刑事たちの執念が実り岩内、函館、下北、東京、舞鶴の事件が一つに繋がっていく。

戦後の混乱期に起きた哀しい事件と事故。底辺に生きる男と女。職務に忠実な追う者と過去を消したい追われる者との執念のぶつかり合い。水上勉の代表作の映画化。内田吐夢渾身の演出。

【解説】

■ポイント

●原作は水上勉の小説

水上勉の代表作で、度々映画化、テレビドラマ化、舞台化されている。

1954年に起きた洞爺丸台風、岩内大火等実際に起きた大惨事が折り込まれリアル感を増している。

●洞爺丸事故と岩内大火

- ・洞爺丸事故は1954年9月26日に青函航路で台風15号により起きた国鉄の青函連絡船洞爺丸が沈没した海難事故。死者、行方不明者あわせて1155人におよぶ日本海難史上最大の惨事
- ・岩内大火は洞爺丸台風襲来時の悪条件により市街の8割、3298戸が消失した火災事故

●監督内田吐夢(1898年～1970年)

代表作:「大菩薩峠」(3部作・1957年～1959年)

「宮本武蔵」(5部作・1961年～1965年)

東映が無断で本作を短縮化したことを契機に東映を退社



■見どころ

●主要俳優の三人の究極の名演技

三國連太郎、左幸子、伴淳三郎の演技は一世一代の名演技。

今であれば、日本アカデミー賞主演男優賞、助演女優賞、助演男優賞ものの演技